

母塾

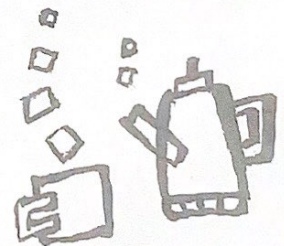
VOI-49

2021・1・18

illustrated by Kurumi

『 ママに言われ続けたことを「言う」 』 いのはなはるこ

冬休みも家族が揃うと8人家族の我が家はかなりの「密度」です。誰が食べ終わって、誰がまだ食べていないのかもわかりません。年長のロクがひとりで遊んでいても次々と誰かが構っています。「生活表今日はやったの？お手伝いは何？」「食べ終わったらすぐにお皿持って行くんだよ。」「テレビはそんなに近くで見ないの！」次々と兄や姉たちに注意されています。「もうやった！うるさいなあ。」とロクも口応えしています。



25才の長男は父親のように口うるさく注意しています。「遊んだおもちゃを片づけてから！」としつこく言って6才を泣かせています。自分の部屋はぐちゃぐちゃなのに、よく言うよね。とは言わずにいました。「あとで一緒に片づけるからいいんだよね。」と私がロクの肩を持つと、甘すぎるんだよ！とは言われませんが、不満そうに引き下がります。なんで自分ができていないことをひとには注意するんだろう？と思い、よく振り返ってみました。それらの注意の数々は、私が長男たちに言い続けた言葉ばかりです。子どもはママに言われたことを「やる」のではなく「言う」ようになるのです。口調も私にそっくりです。確かに忠実に私の注意を聞いていたのです。自分でも忘れてしまっているのに、無意識の中にママに言われたことはずっと残っていくのですね。私の無意識の中にも母の注意が残っています。

子どもには注意しただけじゃ注意をマネされるだけなのか、と今さらながら。なんで自分ができていないことをひとには注意するんだろう？長男に言えなかった同じ言葉が、自分に返ってきました。

harukoinohana1717@gmail.com